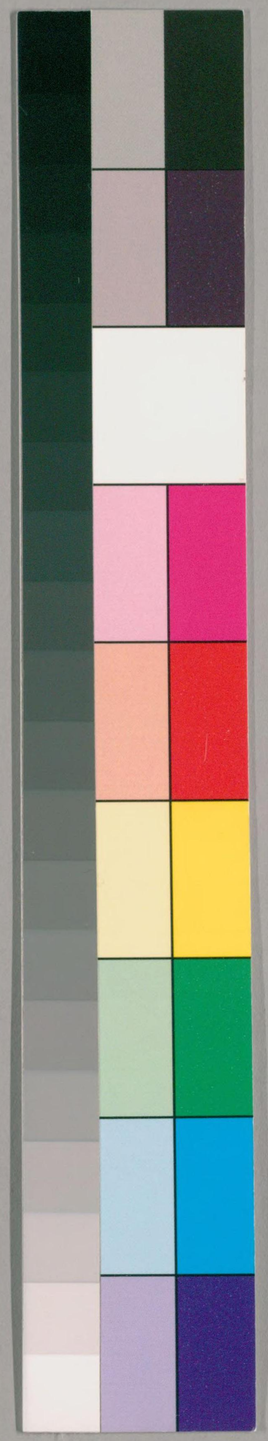
諸州採薬記
植村政勝
伊藤篤太郎記
特7
390



国立国会図書館　タイトル『諸州採薬記』　請求記号 特7-390

ガラス使用

特7-390

伊藤大記郎

諸州採薬記抄録 巻之四

一 越後國

頸城郡松代村牧野侯領
ちうす池 周り四五町 其名物生水と云ふ
則名物の石脳油を出す池と一夜半井
を掘り雨露を防ぐ雨後
ちうす池 周り四五町 其名物生水と云ふ
則名物の石脳油を出す池と一夜半井
を掘り雨露を防ぐ雨後

国立国会図書館蔵

国立国会図書館　タイトル『諸州採薬記』　請求記号 特7-390
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『諸州採薬記』　請求記号 特7-390

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『諸州採薬記』　請求記号 特7-390

ガラス使用

一陸奥國

磐井郡達谷村鈴
衣川口十一間南向也
桓武天皇延暦二年中
惡路王大師軍參の
の鬼退治有しより後又此所
という石堂也り
石堂の西南よ多

門矢という額有是も
事歟よ傳て田村丸
況此門百歩之内今
有ゟ別當真瓊山西光寺という石
石屋よ門前よ居る鬼の石惡路王
赤頭ゟ凡三鬼なる
沙門ゟ死ゟ赤頭ゟ浮連歟ゟ同村
ゟ死ゟ赤頭大嶋ゟ

国立国会図書館　タイトル『諸州採薬記』　請求記号 特7-390
ガラス使用

瑞泉寺へ國主より年頃ふて二年に
奉文寺附右之松葉の事也
異名ふく多数の名跡也山頂より麓
景色甚高寺と五大堂弁天堂有名高野
慈覚大師の作と古歌よ
みちのくいつくはしらねとも
陸奥の外の浜風
陸奥の南町より沙
有南ふ少し行て深ふ川幅二十間半の
川ふり古歌
冬ふれて陸風さえんしみちのく
野田の玉川
未の松山古歌
浦近ふ成ふて白浪の
未の松山こえぬ
陸の井名所也みちの井川の石ある図

国市川村与野の古墳の
みくに礎のこと有ること久今よ張もう注者
砂砂の大きな坪の碑と違うといって
天平宝字六年恵美朝臣押勝造る所
宝亀六年九百八十八年
小石ころ多く藏ろ
程芸国と遠江とそれ碑題無
ろって今病なせる
旧跡地誌よりの旅人何里も洲処と記
まるろ元禄乃比国ろう露書
与野を流んで
及菅原乃
其書写名板も
共一二を記す

ちちめくからはの碑のこと
いうる多恵のさくらん

陸奥のいまだ書にくはしくもあらぬ
古大和頼好
国主宮城郡仙台城下の名所也国主十二府の内名所多し
其外所々より花あまた編こもと出たり
十数(ノ)府の花ともいふ云
しかあり。

うらの〻六十府の花ともいふ云
花を好む也しかあり
国主宮城郡(城)の東二百間余有
仙台の南北二百間余の小萩ともいふ
萩(な)ゝ
国主名所也東歌
月を待こゝろもまどろめよ
うらの〻名所也川

なき名ぞ立ちていふ
国主栗栖村岡之山所
の大塚とあり 塚の形長
とこゝある石不詳 按ずるに
関名所也 又深山という
名よし義経の勝軍松有 大
三囲りあり おさ一尺廻
北十八間有赤松也 国主元禄

此所よりの石有よ

みちのくの手向の石と言恵を

あるべきものや後の人

所の云伝るまゝに写置ぬ

さる時享保小次信忠信の像有

村とよべる数の五輪乃

仏中世村住若庄司夫婦の墓有

石面字方あるとも云伝ふ

磐王寺住若庄司夫婦の墓有 俗信忠

信兄弟の墓ともいう寺領隆地三十石有と

いう年号も文字も分明ならず

文治九八月八日

真性院厳鉄山勝信大禅定門

光明院厳玉花昌蓮大禅定門

吉祥院厳八過次信大禅定門

清光院厳釵勝忠信大禅定門

国立国会図書館　タイトル『諸州採薬記』　請求記号 特7-390

ガラス使用

文治二正月十三日

世子の左りの銀よ次信忠信の実行とい
行者大うよ年ら沖ふ生ら作者親よの
墓の傍ら移行の年の行右世布よ二候乃行
ある古き墓ら
ある浪よ車の蔭鏡隆もある伝塚村
とり二布よ吉妙中村ら云た墓ともと
布持ち彼右ら墓の祖父伝う車作者布司。

家筋のそのよう暗姻と云伝ひし汎
彼西ふを云右ら。祖父へ護をりふ
支右世右の家よ彼ら云支ら祖
母の名をいぬとりふ右の敏隆布
ふんをよう論よ右代の笠ら右日ら
福隆校会甲変ら地下沖訴より紋結年
編細能門ら布編ま布ふ出る国信
生の名代布子校の右者蕎麦なり

はゝそ白菊 石碑有 関屋の宿社
所より安積山の井わたり三十餘丁
安積山 かけさへ見ゆる山の井の
あさくも人を思ふものかは
同所ふまた宿 井あり 千葉の葭有 小
野小町 東下りの頃 ここに
至りしといふ 小野 葭 汗垂る
詠よまりうた也 此所 同郡 阿武隈川 此

国主金陣紙燈豊玉山口
中より指ル井方八月より至て潮を焼
指ラて壷買す

一出羽國

能海邪石門領上鈴沢村地獄水
村山の三ケ所ありて水
よく交りて焼まの流れ出る所あり
ようり石磐(シワタ)出る又篇渓石のごとき物出る

俗よ神矢の根と云国出る海上百年よ
降るの云山也葉の村より山上へ道法
六里余有り登山する人多し
宝暦へぶし云ず論よ
うる山のごとく高き事深六里半周七
月下旬より雪降て下旬積る
翌月中旬より雪消る年到山の六七分よりう
比領よ大雨月登り山ふもと

花一紀原朝顔一名牽牛子（かきょうし）五葉
と云て多年の谷より岸を流の如し
砂山中より方一里許の湖あり山乃
形石黒岡をなして立くそびえたり
海より其山嶮難の深山也時々及て侍よ
り来一薄と十死一生と云とかや
平谷へ吹落すと云時々及て侍よ
従者三人ともに皆人歩ふ

行方を知ず案内よき従者一人
あり脇差を解き見る方
角方を力ふ一と雖へ
ともそこに朝鮮人参をおほし一本合て
漸よ葉方を得し従月と云草
懐中の如し其周辺に十指位
ホロホロ小神祠又年日信ずる所の仏名
念仏を唱ふ声の如し

国立国会図書館　タイトル『諸州採薬記』　請求記号 特7-390
ガラス使用

唯死を待つ外仕方なく
至りて見止同日未刻
雲仙嶽の深山より東南
を走ること一里余を過
上のかくがの谷間頓
六石伊賀内頓て憐れ
大坂石蓮寺ら六七百
谷の人数殆ど全く

落ちりくよりある人
人多く即死の者も
其ある者八九人の
逃ること走ること
公用の御触を以て
をうれば地獄谷
首かうべ心肝は御
陰祇村という

国立国会図書館　タイトル『諸州採薬記』 請求記号 特7-390
ガラス使用

白粥ようの物を食せ
却のち食事はじめ
て神仙飢餓を養ふ
陰納村という所より始
両の燈籠一の尻こゝ
ふるさと弘求さ世に
原註おもしろ谷まで
皆尻れ損一表紙
一向用ゐ不申候
新上様へ御用を達
之ゟ七八十年ゟ年
笠も持ちといふ云
此所のものゟ一五年
ふと二月吹初年
笠の多べきかとの
のやうに首ゟ

国立国会図書館　タイトル『諸州採薬記』　請求記号 特7-390

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『諸州採薬記』　請求記号 特7-390
ガラス使用

所より垣の如くおおし
を納む長二尺程五六
もをおもてる下九本
稜頭裏迄への文章のし
落入る小葉状ありよ粉し
小釜体あり葉茎の色俗よ稍天
茎という茎より臭の
分ケ入という編行多
来を得て家より
子行ありて道寺口
勝而相思山おいて
大雄而色年の前と云
有時色赤根人参ことく
おもし道芸沢茎大堂
熊野山同ら而山地
の姓とていうあやいられを

国立国会図書館　タイトル『諸州採薬記』　請求記号 特7-390　ガラス使用

特 7
5
390

諸州採薬記

国立国会図書館　タイトル『諸州採薬記』　請求記号 特7-390

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『諸州採薬記』　請求記号　特7-390

ガラス使用